



埃ノ宮からの遠景

Eno Times

エノタイムス

2019年(平成31年)
3月31日発行

可愛地区振興会
発行責任者 総務部

第25号



地域の変貌

平成からの脱皮

花咲公園からの可愛地区遠景

可愛地区は、会員の皆さんの積極的な参加を得て、様々な継続活動がされてきました。平成30年度が終わる今、可愛地区に多くの変革期が訪れています。今号は、それらを少し詳しく紐解いてみましょう。

可愛地区のルーツから考察！

●可愛の語源は (アージュ図書館・市歴史民俗博物館の書物から考察)

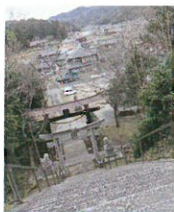
えのむら 可愛村 の村名は、「日本書紀」巻1に「安芸国可愛之川上」とあるのを当地のこととして名付けた。と「日本地名大辞典」にあります。

可愛之川は「吉田川の旧名なりと云ふ」とあり、吉田川の説明には「一名新庄川、石見の江川の上流なり」としている。とすると、江の川は石見側の呼称で、安芸では可愛川といい、後に吉田川、一名新庄川と呼んでいたということか。

「岩波古語辞典」には、え『接頭』名詞について、愛すべきの意をあらわす。『可愛、これをば哀(え)という』(紀神代上)とあり、可愛と書いて「エ」と読ませていた。可愛川には「愛すべき川・大切な川」という意識が働いていたのか。また、「エ」は「兄」と書いて、「大きいもの、優れたもの」の意味をもつから、「勝れた大河」の意味で「エのカワ」と呼び、暴れると恐ろしい大河であるがゆえに、可愛くおとなしい川であってほしいと願って「可愛」の字を当てたのかも知れない。



(書物からの記述を引用)

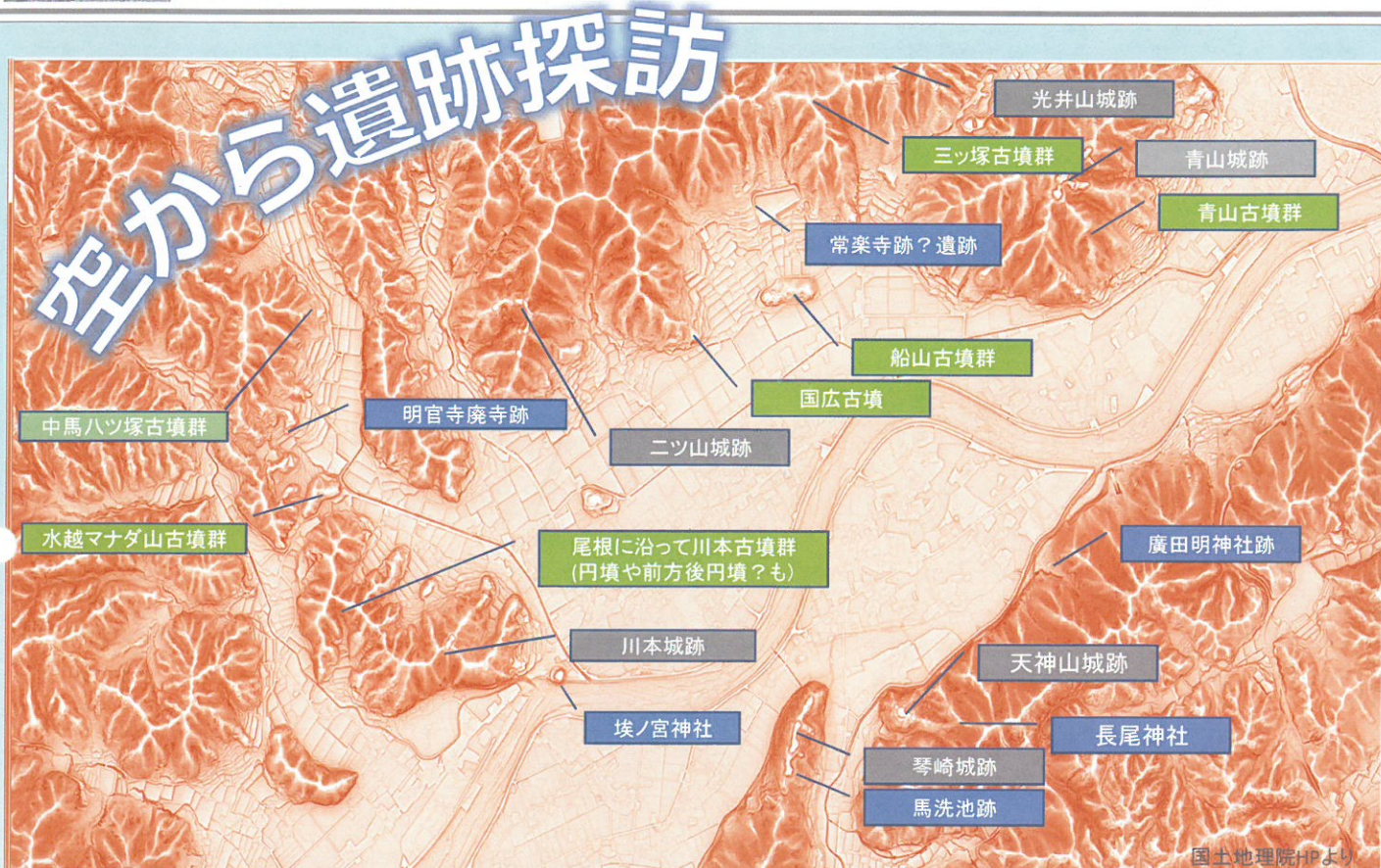


埃ノ宮神社から
下界を見る

古代からの変貌

点在する遺跡

可愛川を挟んで、両岸に多くの古墳や遺跡・城跡が存在しています



福原城跡見学会

可愛地区の地形を空から眺めると、江の川(可愛川)を挟んだ両岸には、見慣れた住宅地・工場群・田畑の農地が展開しています。

山林部には、古墳時代から中世近世にかけての、円墳・横穴式石室・城跡や神社跡が隠れています。(広島県埋蔵文化財一覧から一総務部編集)

時には、太古の住人がいた可愛地域の姿を空想して、未来の可愛地区のこの平地部にも、今私たちが何を残せるのか、思いを新たに・・・(“-")



安芸高田市歴史民俗博物館に所蔵されている明官地廃寺の丸瓦や軒丸瓦出土品(講演時)この瓦文様から、県内他の寺院にも同様の文様(変化している)が見られ、寺の文様変遷時期や製作技法から、明官寺廃寺に係る瓦工人の動向など安芸地域と古代可愛(中馬)地域の重要な位置づけが見えてきます。

『芸備 第50集』から)

すらを調説りとの瓦内
 。な述査明をしから
 可るべ内が考てから
 愛保ら容あえ捉か
 も存れにりるとえ
 中対大伽たか、
 核策や変藍。な安こ
 地や興置金り芸の
 し開味置堂重へ地
 て活深な堂要の域
 の用くどや要の域
 割望今別跡寺教中
 ・れの見発と広寺工
 ・まさ方掘のが院人

出た「軒丸瓦」の
 土質は、この地
 域特有の、粘土
 質の土で、瓦の
 表面には、丸瓦
 のみならず、軒
 丸瓦も出土し、
 瓦の形状も、古
 代から中世まで
 の連続性を認め
 られる。

三月十六日市地域振興事業団の歴史
 講演会でも「安芸に伝わった仏教文化」
 として、東広島市出土の土
 文・明官地廃寺「安芸に伝わった仏教文化」
 講演会でも「安芸に伝わった仏教文化」
 講演会でも「安芸に伝わった仏教文化」

この地域の中核寺院として捉えた

明官地廃寺跡

継続活動報告H30

可愛地区振興会 各7つの支部の独自で様々な活動が、支部長さんを中心に役員の皆さんや家族を含めた会員の参加で、地域の繋がりが継続してきました。

夏祭りなど



毎年、吉田の「一心まつり」には、100人以上で一心節踊りに参加しています。女性部を中心にバザー出店や有志による武者絵巻に参列し継続した行事となっています。

各地区での、夏祭り・盆行事や収穫祭なども継続されています。

自主防災活動(手本に)



安芸高田市の消防団員も、地域の防災に欠かせない会員です。いざ災害や火災時には、情報提供や災害活動に共に協力し、地域の人自身も自主防災意識を忘れず、日頃からの訓練をして、いざ有事に備えています。昨今は想定外の事が当たり前になってきています。「備えあればうれしいな!」(・?・)

可愛地区文化祭

秋の文化祭には、ステージ発表の他、小学校児童の作品展示・手芸や木工工作作品の展示もされます。今後、若い人の参加も望まれます。



元気な笑顔で 敬老会開催



振興会での主催により、敬老の日前後に、可愛小学校で式典が開催されています。子供たちの「よさこいソーラン」に始まり、民謡やコーラスなど1日元気を共有しながらの開催です。



書初め大会

年が明け、恒例の書初め大会を開催しました。講師に竹原の松村さんを招き、34名の小学生が参加し力作を披露。



振興部による市政懇談会の開催

毎年、市の市長をはじめ市の幹部職員との懇談会を実施。市からは、道の駅整備事業や田んぼアート公園整備事業などの概要説明があった。各支部からは、災害復旧対応の状況、河川の浚渫などの要望意見が出された。



可愛地域の未来は

つぶやき…

これまで振興会役員や会員さんの協力で、多くの行事を進めてきました。しかし、このまま同じ状態で続けてゆくことは、今まで以上のエネルギーが必要になってきています。

近年、可愛地区振興会も含め農業関係・任意団体など、市内の各地域・各種団体などの組織運営に、担い手不足や世話人・参加者の固定化など 少子高齢化進行の課題が顕著になってきました。

将来人口の推移をみても、市全体ではかなりの人口減となります。行政での最大の課題も少子高齢化対策に重点をおかれ、定住・人口増などへさまざまな施策の展開に予算が割かれています。しかし、今後の展開は未だ先行き不透明です。

可愛地区は、以前に一部報告したように、ある程度人口減は緩やかな状況で推移しています。逆に、若い世代の住宅地建設が山手地区など旧農免道沿いに展開され、同居の子供世代も増えてきている状況もあります。今後は、こうした若い世代の力をもっと活動に巻き込む手法があればな〜と。

各地区行事推進の役員から



毎年、各地域での独自行事に役員のみなさん頑張っています。

役員になった方への期待は、同情へと変わり、他は奥の方へ静々と。

よし！ できる範囲を見定めて、変える勇気も必要。変革の時期今だからこそ。と思うが…

「ちょっといい？ちょっとで終わった 試しなし」

「意見だせ 出したとたん
に 担当者」 そんな〜!!

サラリーマン川柳より

防災活動には自主活動と消防団員確保や情報共有が不可欠

7月の広島県の豪雨災害の爪痕は、まだまだ現地に行けば残っています。市内の災害復旧工事もこれから本格となります。

すでに、私たちの関心は、間近に迫った農作業日程や5月の10連休の過ごし方に移り、あの日の恐怖は忘れかけているのでは。

地域の事は地域で出来るには、普段からの訓練や情報の収集、連絡体制が必要かと。

田畑の見回り時、雨水の増水時を想定しての点検、枯草の野焼きの注意など、日常の点検活動も忘れずに！

可愛地区代議員総会は5月15日（水）予定

振興会での今後の活動を、平成が終わる今、もう一度考えてみる時かも知れません。役員交代時期、各支部での意見を持ち寄って、無理のない活動を継続できるよう、次期役員の方の皆さんの知恵をお願いします。

(役員さんは4/24の役員会までに支部・各部の整理をお願いします)

疑問？

花いっぱい運動の今後？

これまでの定着した活動を見直すことも変貌を望み必要か。 継続は力ですが、だれが望み、誰の為にするのか・・・ 世話する皆さん 腹いっぱいでは。

友愛弁当は喜ばれてる？

振興会による市政懇談会は必要？

毎年、市の市長をはじめ幹部職員さんを囲んでの懇談会は、他の地域では、少なくなっています。地域の課題は、担当課で答えが出るものばかり。市長の話を聞くのは、市が主催して開催するのが本筋なのでは・・・



洪水



満水状態の河川



中馬地区 説教所跡地のがけ崩れ現場

〔七月豪雨による
がけ崩れの様子〕

2月3日(日) 市政懇談会では、7月豪雨災害での災害箇所の早期対応の状況報告や今後の河川浚渫要望質疑を受けた回答があった。可愛地区の災害は、小河川の氾濫や裏山の土砂崩れ、ため池の崩壊などが想定され、日頃の大雨情報など早期警戒が望まれる。近年は、**想定内**の災害は頻繁に発生している。

交通路の変貌

【高規格道路の進行と周辺の変貌】



吉田町常友地区(R54号線)と向原を結ぶ高規格道路が着々と進んでいます。

新年度、いよいよトンネル着手となります。まずはトンネル内の土を、盛土に利用して路体づくりです。

?年後には向原に到達予定です。今回の工事は、全長2.1kmのうち1.6kmを工事施工し、随時進められます。

中学校前 国道拡幅工事着手と歩道橋一部完成

現在工事が進められている、吉田中学校前の国道54号線、国の事業である交通安全対策工事の進捗状況です。中学校前進入路の橋に併設した歩道橋を市の事業で着手し一部が完成しています。

国道工事部分は、本線カーブが修正され、広島側の歩道と同じ幅で倉庫前歩道が拡幅されています。



吉田に向かって右側の歩道整備



中学校への進入路左側へ歩道橋



拠点の変貌

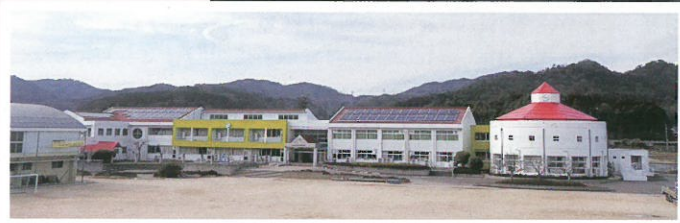
小学校統合

拠点施設の廃止と その代替え施設は

可愛小学校閉校→愛郷小学校
可愛集会所廃止↓
振興センター増築



安芸高田市立 可愛小学校



愛郷小学校となる可愛小学校全景

平成31年4月から、可愛小学校から「愛郷小学校」に生まれ変わる校舎（内装・外装も一部一新された）。

現在(H30.5月)、可愛小では165人の児童数と新本校長先生はじめ、20名の先生方(教頭、事務長、教諭・養護教諭・教育介助員・ALT)で運営されています。郷野小は、藤田校長先生のもと48名の児童数。今度6年生の卒業後、新たな可愛・郷野の新1年生が仲間となります。

3月24日 可愛 小学校閉校式



利用停止となる可愛集会所

山手地区に誕生する「道の駅」の工事により、現可愛集会所が廃止となります。少しの間、使用が制限されますが、この代替え機能を「可愛振興センター」の敷地内に新たに建設予定です。調理室の増設や和室機能が加えられた増築工事が、新年度始まる予定です。

可愛集会所利用の皆さんは振興センターへの転換をお願いします。





観光地への変貌 道の駅 田んぼアート

市の「田んぼアート公園整備事業」説明資料

「道の駅」 「田んぼアート」



■ 田んぼアート公園整備事業

可愛地区の「道の駅」開業時期に合わせ、国道54号線 山手コンビニ「ポプラ」から吉田サッカー公園へ向かう市道「市場宮ノ城線」を500m位入った左側に、中世屋台村をイメージした観光スポットが計画されています。

田んぼアートの鑑賞用展望台を整備し、周辺に「毛利元就」を焦点とした、中世城下町のイメージした屋台村を展開する拠点整備となるようです。

当面、稲の試験的な作付けを行い(すでにH30で鑑賞米の試験作付けを実施済み)造成予定地前の小圃場でスタートする計画です。(右上囲み図)

■ 「道の駅」整備事業

事業の概要は第24号で報告しています。

現在、事業個所周辺での家屋移転や市道改良工事などが実施され、本體工事の入札も契約され、新年度より工事着手となります。



生活支援員制度

高齢の方・その家族・お隣様へ

制度の内容

ハズキルーペは必要なし！

安芸高田市の生活支援に振興会も参画しています。

生活支援員制度とは・・・

地域振興会を中心に、地域内の高齢者の方の見守りをする事で、孤立の未然防止や生活困窮の情報を早めに把握しようとするものです。その役割の支援員はその内容を定期的に市に情報提供することで、市は的確な対応ができるという制度です。

振興会には、活動の費用の補助があります。現在支部に均等に配分し、関連活動資金に充てられています。

振興会では、この活動をするにあたり、各支部長さんを通じて実施の方向性や内容把握を議論しました。熟慮の結果、現在では支部ごとに体制が異なる形で、活動が進められています。(支援員名簿は市に届けが必要)

実際に、見守りを求める側の同意が必要であり、地域によってはすでに同様の見守りは日常的にされ、そうした事が必要ない地域もあります。今後において、地域で見守る必要が出てくる事案があれば、市役所や各支部振興会にご相談ください。

編集コラム

今年度も、年間1度の編集となりました。長く振興会を見てくると、同じ行事が繰り返されていることで、紙面に乗せる写真や記事に変化が見られなくなり、編集に行き詰まり感を感じての部数減となっています。

後継者不足問題も、さまざまな分野で起こって来ているようです。一人の肩に多くの重荷がのしかかり、慢性肩こりの状態では、楽しくありませんね。

自らも楽しんで活動ができれば、言う事なし。

イチローのように、自分で出来る範囲を目標に少しがんばるのが、ストレスを感じない極意か！

可愛小の変遷
(閉校式での沿革映像から)

